



Fukuoka Prefectural University

Kendai

magazine 2016 秋号

no.21

福岡県立大学広報

Contents

入学式／入学者の声	P2
オープンキャンパス	P3
田川飛翔塾／秋興祭	P4
国際交流	P5
土曜の風プロジェクト	P6
熊本地震に対する支援	P7
サークル紹介	P8
教員研究紹介	P9
名誉教授称号記授与式／新規採用教員紹介	P10・11
科学研究費他	P12

福岡県立大学 入学式

2016年(平成28年)4月4日(月)、学部第25回、大学院第20回入学式が行われ、人間社会学部172名、看護学部98名、大学院21名、合計291名が新たな学生生活の一步を踏み出しました。

式では、柴田洋三郎学長から「大学では、単に既存の知識を身につけるだけではなく、新たな課題を見つけて挑戦し、それを解決するための技法を磨くことが大切です。大学は将来の夢や目標に向かって、その実現を目指す人間成長の場であり、良き友を作り、先生方、先輩や後輩、さらには地域の方々との温かな交流により、しなやかな心を持ったたくましい人に育ててください。」との告辞が述べられました。

また、小川知事の代理としてご出席いただいた大曲副知事から「一生懸命に学び、知識や技術の修得に努めてください。多くの経験を積んで人間力を高めてください。そして一生付き合える友人を多く見つけてください。」と祝辞をいただきました。

これを受け、学部生代表の看護学部の余宮晴さんが「知性を磨き教養を深め、将来の社会人としての基礎を養うことに努めます。」と宣誓。引き続き大学院代表の人間社会学研究科の渡邊つかささんが「一層勉学に勤め保健・医療・福祉の分野で貢献できる専門的職業人としての基礎を養うことに努めます。」と宣誓しました。

最後に、新入生や会場のみなさん全員で学歌を斉唱しました。



▲告辞を述べる柴田洋三郎学長



▲学部生代表 余宮晴さん



▲大学院代表 渡邊つかささん



人間社会学部人間形成学科
1年 岩崎 瑞希

私には、幼稚園教諭になるという小学生の頃からの夢があります。また、心理学にも興味がありました。福岡県立大学の人間形成学科では、保育・幼児教育に関する専門的な科目だけでなく、心理に関する科目も学ぶことができると知り、私の夢を叶えるのに最も適している大学だと思い受験することを決めました。

大学生活は不安なこともありましたが、友達や先輩・先生方など、いい人ばかりでとても楽しい毎日を過ごしています。試験前など、大変だなと思うときもありますが、同じ目標に向かって頑張る仲間が周りにいるので、自分も頑張ることが出来ます。将来、子どもや保護者に寄り添うことが出来るような幼稚園教諭になるために、大学生活4年間で専門的な科目だけでなく、関連する科目も幅広く学び、多くの知識を身につけたいと考えています。さらに今後は、ボランティア活動などにも積極的に参加したいです。

VOICE

~入学から半年が過ぎて~



看護学部看護学科
1年 岡本 七海

人の心を汲み取れる看護師になるために、福岡県立大学を選びました。福岡県立大学の看護学部ではここでしか学べない、看護学や考え方を学ぶことができます。例えば、1学年で受講する、ホリスティック人間論という講義では、東洋医学の考え方に基づき、人間が生まれながらにして持つ"自然治癒力"を高めることに重点をあてた、治療方法や考え方を学ぶことができます。

福岡県立大学は県外からも多くの学生がやってきています。これは、察がある大学ならではの事だと思います。また、福岡県立大学では交換留学も盛んに行われていて、韓国や中国の留学生とも交流することができます。このように、福岡県立大学は様々な人と関わる機会が多くあり、広く人間関係を築くことができます。

福岡県立大学での大学生活で、看護を学ぶことはもちろん、バイトやサークル活動や友達関係などを通してコミュニケーション能力を高め、"人の心を汲み取れる看護師"になるための経験を積んでいきたいと思っています。



▲小論文解説

OPEN CAMPUS

2016年(平成28年)8月6日(土)に夏のオープンキャンパスを開催しました。今回のオープンキャンパスには、炎天下にもかかわらず1,391名と多数の方が来場されました。来場者は、県内、九州各県にとどまらず、中国、四国、近畿、関東、中部、遠くは北海道から参加された方もおられました。

当日は、学長、両学部長からのメッセージをはじめ、各学科の説明会、本学の「小論文・英語」における入試対策のポイントの解説や在校生・教員と直接会話ができる「個別相談コーナー」、看護・心理学を体験できる「体験コーナー」、「寮見学」等のプログラムを実施しました。

来場者からは、「小論文解説が具体的で受験対策にとっても参考になった。」「学科について詳しく知ることができた。」「在校生と話せて大学生活のイメージがわいた。」「話だけではなく体験もできてよかった。」等のお声をいただき、ご来場いただいた高校生等に本学の魅力を伝える大変有意義な一日となりました。

また、高大連携の一環として、オープンキャンパスと同時に開催したサマースクールでは、両学部で演習形式の講座を開き、多数の高校生に参加していただきました。



▲個別相談コーナー



▲看護学体験(高齢者体験)コーナー



▲サマースクール(いのちと癒しのワークショップ)



▲心理学体験(脳はいかにだまされるか)コーナー

田川飛翔塾

8月9日、田川地域1市6町1村の中学2年生32名が参加する「田川飛翔塾」の入塾式が本学で行われ、小川洋福岡県知事による訓話がありました。

田川飛翔塾は、将来さまざまな分野で、リーダーとして活躍する人材を養成するため、添田町の県立英彦山青年の家での合宿を中心に、学校教育では体験できない各界トップリーダーによる講義や他中学校生徒とのグループワークなどが実施されるサマースクールです。

今年度も本学から7名の学生が、生徒指導などを行うグループリーダーとして参加し、塾の運営に携わりました。

また、8月22日には柴田洋三郎学長、森山沾一名誉教授による講義が本学で行われました。



ご来場
お待ちしております！



第25回秋興祭実行委員長
岡本 奈津子

今年で秋興祭も25回目を迎えることとなりました。124人という県大でも最大規模の人数で活動している私たち秋興祭実行委員は、6つの部署(宣伝・企画・渉外・設備管理・会場設営・イベント)に分かれ多岐にわたる分野で企画・運営を春から行っています。

第25(にこにこ)回のテーマは「笑顔満祭～25回の“ありがとう”をこめて～」です。この二日間が福岡県立大学生、秋興祭実行委員、ご協力いただいている地域の皆様、ご来場くださるすべてのお客様の笑顔が満載の祭になりますように、「載」の字を「祭」に変え、願いを込めています。秋興祭を楽しんでくれる皆さまとの笑顔が花開くよう、楽しい企画、ステージをご用意しております。

秋興祭当日、委員は秋興祭自体を楽しむ時間はほとんどありません。しかし、秋興祭を成功に終えたときの喜びは計り知れません。そうして作り上げる、「完成されない場所」として毎年進化し続ける秋興祭に、今年もぜひご来場くださいませ。委員一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

第25回 秋興祭

11月12日(土)・13日(日)



韓国文化研修

福岡県立大学と大邱韓医大学校は長年交換留学を行っており、その一環として、本年も同大学が実施する韓国文化研修プログラムに2名の学生が招待され、5月9日～13日の5日間にわたる研修に参加しました。

研修は、韓国語の学習・寺院での韓国茶道・団扇作り・街の散策など盛りだくさんな内容で、寮や学習するチームには他の日本人はいません。世界9つの国・19校から参加した留学生とお互いの国の言葉を教えあいながら学習しました。こうして、わからないことがあっても一所懸命伝えあったことが心の深い思い出になり、帰国してからも学生達の友情は続いています。



留学生支援事業

本学では受け入れている留学生と福岡県立大学生の交流を支援する「留学生支援事業」を実施しており、年に5回程度一緒に福岡県内の様々な場所に探索に出かけます。

今年度1回目は6月に実施し、川崎町の魚楽園と自然食レストランへ行きました。伝統的な日本家屋を見学し、地元で作った野菜を使った地産地消の料理を楽しみました。

2回目は「飯塚友情ネットワーク」主催の留学生の集いにお招きを受けました。筑豊地域の他大学の留学生と触れ合ういい機会となり、他国の友達を作ることができました。

3回目は7月に実施、北九州方面へ行きました。「いのちのたび博物館」で生命の誕生から進化の過程及び生物の生態を迫力ある再現ロボットで学習しました。昼食は岡垣海岸の割烹旅館へ。1回目の支援事業と対照的な、新鮮な魚介の地産地消料理を堪能しました。昼食後は鐘崎海岸でスイカ割りに挑戦。青い海の向こうは留学生達の祖国です。「スイカには砂糖をかけて食べます(中国人留学生)」「えーっ、スイカは塩で!(日本人学生)」という会話をしました。さらに、韓国人留学生がタコを発見し、見事捕獲成功!思い出に残る旅となりました。



派遣留学生だより

私は2月末から、ソウルにある三育大学校に留学しています。こちらへ来てもう半年が過ぎようとしており、時間の流れの早さを感じる日々です。

半年の中で、出会いがあり、文化に触れ、自分についても考えることが出来ました。しかし、やはり良いことばかりではなく、体調を壊して不安になったり、悩むこともありました。それでも今こうして留学を続けられているのは、周りの支えがあったからです。

最近ふと思うことがあります。世の中にはなぜ韓国語を勉強するのか、という人がいるでしょう。確かに、多くの国での共通言語である英語はとても重要な言語だと改めて思います。ですが、三育大学校に来ている外国人留学生の間では、韓国語が共通言語です。こちらへ来て韓国の方とは勿論、他の国の友人と韓国語で意思疎通が出来ることへの不思議さと楽しさを感じました。だから私は、どの言語にも学ぶ楽しさと意味があると思うのです。当たり前のようなことかもしれませんが、私は身をもってこの気持ちを知ることが出来て良かったです。

残り半分になった留学生活、思う存分、笑いながら過ごしていきたいと思います。

人間社会学部人間形成学科 4年 桑原 礼佳



福岡県重点課題事業

土曜の風プロジェクト

平成28年度より福岡県立大学と主に筑豊地域の市町村が連携し、福岡県重点課題事業として、土曜の風プロジェクトが開始されました。

昨今、福岡県の子供たちの学力・体力は全国平均に及ばず、学校のみならず地域をあげた取り組みが求められています。

そこで、土曜の風プロジェクトは、各自治体等から依頼を受け、福岡県立大学の学生を学習支援ボランティアとして周辺地域へ派遣し、地域の子どもたちの学力・生きる力の向上を図ることを目的として学習指導を行っています。

土曜の風プロジェクトの学習支援ボランティアとして派遣される学生は、以下の条件を満たした学生です。

【学生派遣までの流れ】

- ①福岡県立大学の「不登校・ひきこもり援助論」又は「子供学習支援論」の講義を受講
- ②対象の講義を受講した学生が、学習支援ボランティアとして登録及び活動
- ③大学教員及び専従職員（教員免許保持者、精神保健福祉士）が、登録した学生と面談し、学習指導の方法や児童生徒への接し方等を事前に指導
- ④各自治体等の依頼を受け、事前指導を受けた学生を学習支援ボランティアとして学校や地域に派遣

田川市

土曜数学・英語まなび塾

毎月3回土曜日に、中学校1年生～3年生を対象に数学と英語を学習しています。



田川市鎮西校区

学び舎 ちんぜい

毎月2回土曜日に、鎮西中学校1年生～3年生を対象に数学と英語を学習しています。



川崎町

土曜の風

毎週土曜日に、小学校2年生と3年生を対象に国語と算数を学習しています。



桂川町

土曜学習教室

毎月2回土曜日に、小学校4～6年生と中学校1年生～3年生を対象に国語と算数・数学と英語を学習しています。



大任町

おおとう未来塾

毎週月曜日～金曜日の放課後に、小学校4年生～6年生と中学校1年生～3年生を対象に算数と数学・英語を中心に学習しています。



VOICE

勉強が苦手な子どもが多い中、自分の声のかけ方や教え方によって子供たちが表情を変え、分かろうと努力する姿を見ることができたときにとてもやりがいを感じます。また、どうすれば理解しやすくなるかと考えることが、自分の成長にもつながります。



看護学部看護学科 養護教諭課程

3年 松山 美紀

【出身校】 鹿児島県立武岡台高等学校

「熊本地震」義援金募金活動

平成 28 年 4 月 14 日に熊本県と大分県を中心に発生した「熊本地震」は、大きな被害をもたらし、今なお仮設住宅等で不自由な生活を余儀なくされている被災者の方が多くいらっしゃいます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りしております。

本学では、社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、熊本地震の義援金の募金活動を行いました。この募金活動は、人間社会学部人間形成学科 1 年の木下ひなこさん、人間社会学部社会福祉学科 2 年の若杉紗英さんの両名からの活動相談を受けて開始され、4 月 20 日から 27 日までの間に、延べ 67 名の学生が募金活動を行いました。

活動は、田川伊田駅、田川後藤寺駅、大学構内、大学事務局内等において実施し、地域の皆様をはじめ、学生や大学職員から総額 251,000 円の募金をいただきました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。



この義援金を被災地に届けるため、福岡県立の 3 大学（九州歯科大学、福岡女子大学、福岡県立大学）が合同で福岡県に贈呈し、県から熊本県共同募金会を通じて被災地に届けられることとなり、5 月 20 日に福岡県庁において贈呈式が行われました。

本学学生を代表して、木下ひなこさんが小川洋福岡県知事に義援金目録を手渡し、今後も継続して支援活動に参加していきたいと笑顔で話しました。

小川知事からは、義援金贈呈の感謝とともに募金活動のねぎらいの言葉、そして今の大学での学びをこれから先の被災地復興支援にも役立てられるようしっかり学んでほしいとの激励の言葉が学生たちに送られました。

社会貢献・ボランティア支援センターでは、今後も学生による被災地支援の活動をサポートしていきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



社会貢献・ボランティア支援センター長 原田 直樹



ほっとひろば

福岡県立大



心理教育相談室では、熊本地震によって被災され、福岡に避難されている子どもや大人の方々への支援として、「ほっとひろば 福岡県立大」を開設しております。これは、福岡県内にある 7 校の臨床心理士養成大学院が連携して実施している「ほっとひろばネットワーク 2016」のひとつとして位置づけられています。内容としては、福岡に避難、転居してこられた方々が互いに交流したり、臨床心理士やそれを目指す院生と交流する場を提供すること、個別相談を提供することです。被災された方々が一刻も早く、安心できる生活を取り戻されるようお手伝いできればと思っております。



運動系サークル

水泳部

私たち水泳部は、平日1日と休日1日の週2日練習を行っています。練習曜日は部員の時間割に応じて変えており、現在では木曜日、土曜日に行っています。練習場所は、夏期は大学内のプールで、ほかの期間は隣の飯塚市の筑豊緑地というプール施設です。主に大会の場で自己ベスト記録を出すことを目的に、日々練習に励んでいます。一年間の中で福岡県や大分県で開催される日本マスターズ水泳短水路大会や、福岡県民大会などで個人競技、リレー競技に出場しています。今年度には初めて開催された田川地区水泳大会に出場する傍ら、競技役員としてお手伝いをさせていただきました。

部員には経験者もありますが、大学から水泳を始める人も少なくなく、経験者や上級生が指導に当たっています。卒業後も水泳部にかかわりを持っている卒業生が多く、在學生と一緒に大会に出場することも多いです。

ほかのサークルと比べると水泳部は学内でも認知度が低く、実際に部員も少ないです。しかし全員が自分のペースで練習に参加でき、自由度が高いです。また、水泳というテレビで見る競泳のイメージが強く、経験者でなければ入部が難しい、ハードルが高いと思われるがちですが、実際はただ泳ぐことが好きで入部した人が多いです。もし興味があれば一度見学、または体験練習に参加してみてください。

【部長】 人間社会学部社会福祉学科
2年 辻脇 真梨子



サークル紹介



文化系サークル

障害児ボランティアサークル つくしんぼ

つくしんぼは、障害児の余暇支援を目的としたボランティアサークルです。年に5回、お楽しみ会として登録している障害児と兄弟児を大学に招いてみんなで遊んだり工作をしたりしています。遊ぶ内容も釣りや輪投げなど自分たちで内容を考えて手作りの道具を準備しています。夏には田川市社会福祉協議会と共同で田川市内の障害児や兄弟児と一緒に2泊3日のキャンプをしています。子どもたちの服薬や食事、睡眠までお世話する中で大変なことも多いですが、参加する子どもたちと仲良くなれて他では味わえない最高の思い出になっています。お楽しみ会もキャンプも子どもたちに楽しんでもらうことを第1に考えながら活動していますが、自分たちも子どもたちからたくさんのことを学ばせてもらっています。障害の特性はそれぞれ違って時には戸惑うこともあります。話し合いを重ねながら全員で努力しています。

また、障害児を対象とした活動だけでなく地域の障害者施設や田川市社会福祉協議会で行われる様々なイベントに企画・運営段階から関わらせていただいています。たくさんのボランティア依頼をいただきながら幅広い活動を行っています。

つくしんぼはボランティアサークルとは思えないほど、活動内容が活発で、部員間の仲がとてもいいのが自慢です。これからもみんなで協力して様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。

【部長】 人間社会学部社会福祉学科
3年 松尾 萌果



「学校ソーシャルワーク」と「児童虐待防止」について研究を行っています。



人間社会学部 社会福祉コース
准教授 奥村 賢一

① 学校ソーシャルワーク

学校ソーシャルワークとは、わが国の学校教育制度・文化を基盤にして子どもの教育保障のためにスクールソーシャルワーカーが行う実践活動の総体を意味します。スクールソーシャルワーカーの起源は1900年代初めのアメリカにあり、わが国では2008年度の文部科学省「スクールソーシャルワーカー活用事業」から全国的に展開されました。

国は2019年度までにスクールソーシャルワーカーを1万人に増員する計画を打ち出しており、その人材育成も喫緊の課題となっています。本学では全国でも先駆けて「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」を開設して人材養成を行い、これまで多くのスクールソーシャルワーカーを輩出してきました。

近年、不登校をはじめとする学校問題は複雑多様化しており、学校（教師）だけで解決することが困難な状況となっています。現在、私は学校ソーシャルワークの専門的視座から不登校児童生徒の早期発見・未然防止に向けたスクリーニングシートを開発するため、教育委員会や学校と協働して調査研究を進めています。



▲国際学会発表

② 児童虐待防止

厚生労働省の調査によれば、2015年度に全国の児童相談所に寄せられた児童虐待相談対応件数は10万件を超えており、国が調査を開始した1900年度の1,101件から僅か25年の間に急増しています。この結果については、2000年に児童虐待防止法が施行されて以降の社会的関心の高まりによる影響だけでなく、実際的に被虐待児が増えているという見方も少なくありません。一方で、これらは氷山の一角であり、潜在している被虐待児は相当数いることも考えられます。また、近年では身体的虐待よりも心理的虐待やネグレクトなどの「見えにくい」虐待が増加しています。これらを予防していくためには、児童虐待を当事者家族だけの問題として捉えるのではなく、そのような状況を生み出す社会環境のあり方についても見直していく必要があると考えます。その方策の一つとして市町村に設置されている要保護児童対策地域協議会の役割と機能に着目し、シームレス（継ぎ目のない）な子育て支援ネットワークづくりの研究を行っています。

子どもたちを地域で育む社会の実現に向けて、専門機関（専門職）だけでなく地域住民とも協働した児童虐待防止に向けた支援方法を確立していきたいと考えています。



▲授業風景



▲学校ソーシャルワーク実習の手引き

名誉教授称号記授与式

平成 23 年度末で退職された、名和田新学長、森山沾一人間社会学部教授、鬼崎信好人間社会学部教授、平成 27 年度末に退職された、文屋俊子人間社会学部教授、秦和彦人間社会学部教授に福岡県立大学名誉教授の称号記が授与されました。

名誉教授は、多年にわたり本学に勤務し、教育並びに学術上特に功績があった教員に授与される



称号で、今回を含め 22 名に授与されています。

一度に 5 名に授与するのは、第 1 回授与式以来であり、和やかな雰囲気の中で式が執り行われました。



▲左から 名和田新名誉教授、森山沾一名誉教授、鬼崎信好名誉教授、文屋俊子名誉教授、秦和彦名誉教授

新規採用教員紹介

[H27.10.1付]



人間社会学部 講師
小山 憲一郎

昨年 10 月に、人間形成学科心理コース、そして人間社会学研究科臨床心理学専攻に赴任いたしました。これまでストレス関連疾患について認知行動療法を主軸に研究と臨床を行ってまいりました。現在は不安の受容を促す心理療法の作用機序について基礎心理学を基に研究を進めております。臨床心理士の養成においても、臨床心理学のみならず、基礎心理学、医学を礎にした臨床が行えることを重要視していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



看護学部 助手
柴北 早苗

平成 27 年 10 月より臨床看護学系成人看護学領域に助手として着任いたしました。主に成人慢性看護学実習に関わらせて頂いております。これまで緩和ケア病棟や訪問看護に従事してまいりました。その中での看護の遣り甲斐や楽しさを伝えていけたらという思いで初めて大学という環境に参りました。臨床とは異なり戸惑うことが多く、皆様にはご迷惑をおかけすると思いますが、経験豊かな先生方に教えて頂きながら研鑽を積み精進してまいりたいと思ひます。どうぞ宜しくお願ひ致します。



人間社会学部 准教授
大久保 淳子

本年度、人間形成学科こどもコースに着任しました。授業は、幼稚園教育実習・保育学・児童文学などを担当しております。現在、「保育の質の向上」について、様々な視点から研究しております。また、近年の保育政策を幼稚園教諭・児童相談所での経験を生かして、学生の方々と共に、就学前の保育・教育の在り方を海外の幼児教育も踏まえて考えていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



人間社会学部 准教授
杉野 寿子

本年度よりこどもコースに着任し、社会福祉・ソーシャルワーク分野を担当しています。人に向き合い、寄り添い、その人のもつ本来の力を發揮していただくことを支援するソーシャルワークは、保育者に求められる重要なスキルとなっています。私自身も国内外のさまざまな境遇の子どもたちや家族と出会い、そのことを実感してきました。人の幸せを追求する保育者の養成に力を注いでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

[H28.4.1付]



人間社会学部 准教授
美谷 薫

本年度より人間社会学部公共社会学科に着任した美谷です。専攻は人文地理学で、市町村合併が地域に与えた影響などを研究テーマとしています。大学院修了後は宇都宮市の職員をしており、この3月までは、上下水道局で事業計画の策定や予算編成といった業務を担当していました。こちらに着任して大きく仕事の内容も変わり、まだまだ慣れない毎日ではありますが、教育と研究、社会貢献等の各側面で適切に成果をあげていきたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



人間社会学部 講師
中原 雄一

本年度より、人間社会学部総合人間社会コースに着任致しました。本学では、健康科学系の授業を中心に担当しております。特に健康科学実習では、人間社会学部のみならず看護学部も担当していることから、唯一全学生と授業で顔を合わせる教員ではないかと思っております。実技・理論の両面を通して身体を動かすことの楽しさや大切さを伝え、生涯にわたり運動・スポーツを実践することができるよう、教員としての務めを果たしたいと考えております。よろしくお願い致します。



看護学部 教授
小池 祐子

本年度より看護学科基盤教育学系教員として英語の授業を担当しています。14年間のアメリカでの学生・教員生活を経て日本に帰国してから約10年になります。アメリカでは大学で主に言語学の授業を担当し、日本の大学では色々な英語の授業を担当してきました。グローバル化が進む現代社会で、英語力は看護専門職においても重要なものになってきています。言語学の知識とこれまでの経験を生かしてより良い学生の指導に努めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



看護学部 助教
猪狩 崇

本年度よりヘルスプロモーション実践研究センター専任教員として、また看護学部「ヒーリング論」「ヒーリングセラピー」等を担当すべく着任した猪狩崇と申します。現場の経験年数は、看護師と保健師とが半々で、うち地域・在宅での看護に携わった期間が3分の2を占めます。大学院で理論看護学を修めたキャリアを活かし、学生及び地域住民の皆様にも、体系的にわかりやすく健康へのアプローチプログラムを提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



看護学部 助手
仲村 彩

本年度より臨床看護学系小児看護学領域に着任致しました。学生とは主に実習に関わることになります。私自身、当大学の卒業生であり、在籍されている先生たちが私に一生懸命指導してくれたように私も実習等を通して学生を社会貢献できる看護師として育てていきたいと思っております。

初めて大学教育に携わることとなり、不慣れなことも多く大変ご迷惑をおかけすると思っておりますが、ご指導の程よろしくお願い致します。



看護学部 助手
中本 亮

本年度から精神看護学領域に着任いたしました。これまで、精神科病院で看護師として、看護専門学校で専任教員として従事してまいりました。また昨年度は、臨床機能領域で産休代替として従事し、大学教育について学ばせていただきました。実習を通して、学生の精神看護学への興味を喚起し、学生が主体的に学びを深められるよう支援していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



看護学部 助手
宮崎 千尋

本年度より、看護学部基盤看護学領域に着任致しました。臨床経験は、大学病院で循環器内科・心臓血管外科の病棟で勤務し、常に患者様の生命の危機と隣り合わせの緊張した環境の中でも、患者様を一人の尊厳ある人間としてとらえ、患者様の抱えている苦しみや悲しみを共に解決していけるように関わってきました。臨床で経験してきたことを活かし、学生と共に考え、学びあう姿勢を持って、教育に携わりたいと考えています。ご迷惑をおかけすると思っておりますが、ご指導の程、よろしくお願い致します。



2016(平成28)年度

科学研究費助成事業交付決定一覧

〔人間社会学部〕

研究種目	氏名	研究課題名
基盤研究 (B)	(准教授) 藤澤 健一	沖縄における教育指導者層の変容過程に関する研究—沖縄戦前後の人的構成に着目して
基盤研究 (C)	(教授) 池田 孝博	主観評価と客観指標に基づく剣道に適した専用サーフェイスの検討と開発
	(教授) 神谷 英二	「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究
	(教授) 田中 哲也	エジプト高等教育のグローバル化における「外国大学」の教育社会学的研究
	(教授) 福田 恭介	眼球運動・瞬目反応を用いた発達障害児の心理過程アセスメント
	(教授) 本郷 秀和	「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」
	(准教授) 奥村 賢一	不登校児童生徒の早期発見・未然防止に向けたスクリーニングシートの開発
	(准教授) 平部 康子	子どもの公益主体性を支える社会保障法制に関する比較法的検討
	(准教授) 麦島 剛	ADHDマウスの衝動性と前注意機能を指標とした応用行動分析と薬物療法の統合の試み
	(准教授) 佐野 麻由子	ネパールの男児選好にみるジェンダー、カースト・民族、機能分化的社会関係
	(准教授) 堤 圭史郎	旧産炭地における定着・流出・還流—貧困・生活不安定層の移動経験と労働—生活過程
若手研究 (B)	(講師) 中原 雄一	大学生における運動部活動の継続的な実施が精神的健康に及ぼす影響
	(講師) 鷲野 彰子	ピアノロールの計量的解析によるワルツ作品の演奏分析
	(助教) 畑 香里	大腿骨骨折を経験した女性高齢者への支援に関する基礎的研究

〔看護学部〕

研究種目	氏名	研究課題名	
基盤研究 (C)	(教授) 赤司 千波	高齢者施設の終末期ケアマニュアルの開発-介護付有料老人ホームに焦点を当てて-	
	(教授) 尾形 由起子	地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発	
	(教授) 佐藤 香代	女性の産み育てる力を高める教育プログラムの検証と構築に関する研究	
	(教授) 田中 美智子	働く更年期女性の睡眠に着目した就労生活の質を改善するケアの検討	
	(教授) 村田 節子	コンコダンス概念に基づいた経口抗がん剤服用患者支援看護プログラムの構築	
	(准教授) 石田 智恵美	看護学生の知識の構造化を目指した演習・実習連携授業の開発	
	(准教授) 様 直美	認知症高齢者を抱える家族介護者の介護力獲得支援プログラムの有効性に関する研究	
	(准教授) 江上 千代美	トリプルP介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか	
	(准教授) 四戸 智昭	不登校・ひきこもりの子を抱える「支援困難な親」のためのセルフチェックリストの研究	
	(准教授) 宮園 真美	慢性疼痛トリガーポイントへの温熱療法を活用した寝たきり防止看護プログラムの構築	
若手研究 (B)	(講師) 原田 直樹	不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査-大学生の関わりを中心に-	
	(助教) 吉田 恭子	小規模多機能型居宅介護における看取りケアに関する研究	
	(助教) 於久 比呂美	臨床看護師の「自分磨きの極意」と「伝授法」に関する検討	
	(講師) 増満 誠	うつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討	
	(講師) 安永 薫梨	精神科病棟における看護師への暴力防止のための患者教育プログラムの開発	
	(助教) 梶原 由紀子	インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発	
	(助教) 佐藤 蘭子	布製ナプキン使用による女子学生の心身への影響	
	挑戦的萌芽研究	(教授) 永嶋 由理子	看護技術の熟達化過程に伴う「感情変化」と「習熟度」に関する実証研究
		(准教授) 渡邊 智子	高齢者の身体活動量維持のためのM-Testを用いたセルフマネジメントに関する研究
		(講師) 藤野 靖博	段ボール離被架とカプサイジングエルを用いた睡眠導入効果の検証

2016(平成28)年度

その他補助事業一覧

事業名称等	関係省庁	取組担当者	取組名称
大学間連携共同教育推進事業 (代表校)	文部科学省	(教授) 松浦 賢長	多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (連携校)	文部科学省	(教授) 村田 節子	九州がんプロ養成基盤推進プラン

福岡県立大学基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実を図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の実施に活用されますが、用途を指定することもできますので、皆様のご支援をお願いします。

なお、公立大学法人である本学への寄附は、所得税や法人税、個人県民税等の優遇措置が設けられています。

〔寄附金受入口座〕

福岡銀行 伊田支店 普通 2100481
 口座名義 公立大学法人福岡県立大学 シバタ ヨウサブロウ
 ※寄附をされる場合は、事前にご連絡をお願いします。

〔連絡先〕

事務局経営管理部総務財務班 TEL 0947-42-2118



福岡県立大学ホームページ

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

在学生向け携帯サイト

http://www.fukuoka-pu.ac.jp/m_students/index.html

